

長谷川仏教文化研究所関連事項年表

凡 例

1. 当研究所に関連する事項を年表項目とした。
2. 学祖・長谷川良信先生に関する事項は、簡潔に記した。詳しくは、長谷川匡俊著『長谷川良信の生涯 ―トウギャザー・ウィズ・ヒム―』〈淑徳選書7〉、淑徳大学長谷川仏教文化研究所、2020年、所収の年表を参照されたい。
3. 『長谷川仏教文化研究所年報』は、『年報』と略した。
4. 学術共同研究の年数（～カ年）は、開始時点の予定年数ではなく、結果として研究に要した年数を記した。

和暦	西暦	事 項
明治 23	1890	10月、長谷川良信、生まれる。
29	1896	長谷川良信（6歳）、得生寺に養子として入籍。得度。
30	1897	長谷川良信（7歳）、真壁尋常小学校に入学。
34	1901	長谷川良信（11歳）、真壁高等小学校に進学。
38	1905	長谷川良信（15歳）、上京。浄土宗第一教校に入学。
43	1910	長谷川良信（20歳）、宗教大学予科に入学。
45 /大正元	1912	長谷川良信（22歳）、宗教大学本科に入学。渡辺海旭に師事する。
4	1915	長谷川良信（25歳）、宗教大学本科を卒業。東京市養育院巣鴨分院に勤務。
5	1916	長谷川良信（26歳）、結核を患い、闘病生活を房総南端にて送る。
8	1919	長谷川良信（29歳）、マハヤナ学園を創設。
11	1922	長谷川良信（32歳）、アメリカ、ドイツに留学。ベルリン女子社会事業学校に学ぶ。
12	1923	長谷川良信（33歳）、関東大震災の報を聞き、帰国の途につく。12月帰国。
13	1924	長谷川良信（34歳）、マハヤナ学園内に大乘女子学院（夜学）を創設。宗教大学教授。
14	1925	長谷川良信（35歳）、小早川りつ子（26歳）と結婚。大乘女子学院を巣鴨家政女学校に改組。
昭和 6	1931	長谷川良信（41歳）、巣鴨家政女学校を改組し、巣鴨女子商業学校に組織変更。
10	1935	りつ子夫人逝去（行年37歳）。
11	1936	長谷川良信（46歳）、大場よし子（29歳）と結婚。

長谷川仏教文化研究所関連事項年表

13	1938	9月、長男・長谷川良昭(48歳)、生まれる。
18	1943	長谷川良信(53歳)、淑徳高等女学校第8代校長に就任。 2月、次男・長谷川俊臣、生まれる(のち匡俊と改名)。
20	1945	長谷川良信(55歳)、小石川・景久院住職となる。
22	1947	4月、三女・悦子、生まれる(結婚後、菊地悦子。現・社会福祉法人マハヤナ学園理事長)。
26	1951	長谷川良信(61歳)、千葉市・大巖寺第60世住職となる。
28	1953	長谷川良信(63歳)、第一次ブラジル渡航。
30	1955	長谷川良信(65歳)、3月、ブラジルより帰国。
32	1957	長谷川良信(67歳)、第二次ブラジル渡航。良昭(18歳)ほか同行。
36	1961	長谷川匡俊(18歳)、明治大学文学部に入学。
37	1962	長谷川良信(72歳)、第三次ブラジル渡航。
38	1963	長谷川良信(73歳)、『大乘淑徳教本』を刊行。
40	1965	長谷川良信(75歳)、淑徳大学を開学し、学長に就任。 長谷川匡俊(22歳)、明治大学を卒業、同大学院に進学。
41	1966	長谷川良信、遷化(76歳)。 長谷川よし子(59歳)、大乘淑徳学園理事長を引き継ぐ。 長谷川匡俊(23歳)、宗教法人大巖寺第61世住職、大巖寺幼稚園園長に就任。
42	1967	長谷川匡俊(24歳)、学校法人大乘淑徳学園評議員に就任。 6月、『長谷川良信遺稿』が大乘淑徳学園事務局より刊行される。
44	1969	長谷川匡俊(26歳)、淑徳大学社会福祉学部専任講師。 長谷川よし子(62歳)、長谷川良信の退職金を基金として、10月から長谷川仏教文化研究所の組織作りに着手。
45	1970	3月、長谷川よし子(63歳)は、淑徳大学内に長谷川仏教文化研究所を設立し、初代所長に就任。 同月、『近代日本仏教社会事業の研究 一長谷川良信とマハヤナ学園一』刊行。
48	1973	3月、『長谷川良信選集』(上・下)刊行。 4月、長谷川匡俊(30歳)、淑徳大学社会福祉学部助教授。
49	1974	3月、『長谷川仏教文化研究所年報』第1号刊行(以下『年報』と省略)。
50	1975	長谷川仏教文化研究所は、大乘淑徳学園附置に組織変更される。
51	1976	6月、『年報』第2・3合併号刊行。
52	1977	3月、『年報』第4号刊行。 長谷川匡俊(33歳)、千葉県社会事業史研究会代表に就任(のち「千葉・関東地域社会福祉史研究会」と改称・再編)。 11月、『随縁随想 一仏教・社会事業・教育一』がマハヤナ学園より刊行される(研究所は編纂に携わる)。 12月、『年報』第5号『仏教と社会福祉のあいだ』刊行。
54	1979	3月、『年報』第6号刊行。
55	1980	3月、『年報』第7号刊行。 11月、長谷川仏教文化研究所研究所は、淑徳大学から板橋区前野町の大乗淑徳学園本部棟に移転。
56	1981	3月、『年報』第8号刊行(特集:近代仏教と社会福祉)。 4月、長谷川匡俊(38歳)、淑徳大学社会福祉学部教授。
57	1982	3月、『年報』第9号刊行。

58	1983	3月、『年報』第10号『仏教と社会事業と教育と 一長谷川良信の世界』刊行。 4月、長谷川良昭(44歳)、大乘淑徳学園第4代理事長に就任。
59	1984	3月、『年報』第11号刊行。 この年、『マハヤナ学園六十五年史』(通史編・資料編)がマハヤナ学園より刊行される(研究所員も執筆・編集に協力)。
60	1985	4月、学術共同研究「長谷川良信のブラジルにおける活動と日系社会の現状」を開始(5カ年)。 12月、『1.° Simpósio/Seminário Brasil-Japão Sobre Deficientes Mentais. 第1回ちえおくれの子のための日伯シンポジウムセミナー報告書』(社会福祉法人「こどものその」編集委員会編)を刊行する。
61	1986	3月、『年報』第12・13合併号刊行。 7月より8月にかけて研究所員4名でブラジルでの予備調査を実施。
62	1987	3月、『年報』第14号刊行。 7月より8月にかけて研究所員6名でブラジルでの本調査を実施。
63	1988	3月、『年報』第15号刊行。
平成元	1989	3月、『年報』第16号刊行。
2	1990	1月、長谷川匡俊(46歳)、淑徳大学学長に就任。 3月、『年報』第17号刊行。 7月、『ブラジル南部在住日系人の意識調査報告書』刊行。
3	1991	3月、『年報』第18号刊行。 4月、長谷川匡俊(48歳)、学校法人大巖寺学園理事長に就任。
4	1992	3月、『年報』第19号刊行。
5	1993	3月、『年報』第20号刊行(特集:創刊20号記念)。
8	1996	3月、長谷川よし子、逝去(行年87歳)。 4月、長谷川匡俊(53歳)、長谷川仏教文化研究所第2代所長に就任。 6月、学術共同研究「長谷川良信に関する総合研究」を開始(2カ年)。 同月、学術共同研究「『宗教(建学精神)』カリキュラム開発の研究」を開始(6カ年)。 同月、学術共同研究「仏教社会福祉に関する総合研究」を開始(2カ年)。 11月、『学校法人大乗淑徳学園100年史 資料編』が大乗淑徳学園より刊行される(研究所員も編集に協力)。
9	1997	2月、『長谷川よし子先生追悼集』(長谷川よし子先生追悼集編集刊行委員会)が大乗淑徳学園より刊行。 3月、『年報』第21号刊行。 5月、『アップ・トゥー・デート』第1号を刊行(以降、第37号、2014年まで刊行)。
10	1998	3月、『年報』第22号刊行(特集:長谷川良信に関する総合研究)。 4月、学術共同研究「戦後仏教系社会福祉の総合研究」を開始(5カ年)。 同月、学術共同研究「仏教社会福祉の総合研究」を開始(2カ年)。 5月、『長谷川良信 語録』(編集兼発行者 長谷川匡俊)を刊行。 6月、『宗教(建学精神)』カリキュラム開発の研究報告書』刊行。
11	1999	3月、『年報』第23号刊行。
12	2000	3月、『年報』第24号刊行(特集:仏教社会福祉に関する総合研究)。 4月、長谷川匡俊(研究代表)は、科研費の交付を受け、「戦後仏教系社会福祉事業の歴史と現状に関する総合研究」を実施する(3カ年)。

長谷川仏教文化研究所関連事項年表

13	2001	3月、『年報』第25号刊行。 4月、学術共同研究「昭和前期社会事業の基礎研究」を開始（3カ年）。 4月より研究所と千葉県社会事業史研究会の共同で、児童養護施設・成田学園所蔵資料の調査を行なう。
14	2002	2月、『淑徳の時間 おかげの糸』（第1版）刊行。 3月、『年報』第26号刊行。 同月、長谷川良昭（63歳）、大乘淑徳学園理事長を退任。 4月、長谷川匡俊（59歳）、学校法人大乗淑徳学園第5代理事長に就任。
15	2003	3月、『年報』第27号刊行（特集 昭和前期社会事業の基礎研究(1)）。 4月、学術共同研究「民間社会福祉施設の『社会化』に関する歴史的研究」を開始（2カ年）。
16	2004	3月、『年報』第28号刊行（特集：昭和前期社会事業の基礎研究(2)）。 5月、長谷川匡俊監修『長谷川良信全集』（全4巻）が、日本図書センターより刊行される（研究所は編纂に携わる）。 6月より児童養護施設・錦華学院所蔵資料の調査を実施。
17	2005	2月、『淑徳の時間 おかげの糸』（第2版）刊行。 3月、『年報』第29号刊行（特集：昭和前期社会事業の基礎研究(3)）。 4月、学術共同研究「輪島聞声・長谷川良信 両先生の教育思想と実践に関する総合研究」を開始（3カ年）。 同月、学術共同研究「感化院事業の社会史的研究」を開始（3カ年）。
18	2006	3月、『年報』第30号刊行（特集：感化院事業の社会史的研究(1)）。 年報別冊『東京感化院関係史料集』（1）を刊行。
19	2007	3月、『年報』第31号刊行（特集：感化院事業の社会史的研究(2)）。 5月、長谷川匡俊編『戦後仏教社会福祉事業の歴史』『戦後仏教社会福祉事業史年表』を法蔵館より刊行（研究所は編纂に携わる）。 この年、年報別冊『東京感化院関係史料集』（2）(3)（4）を刊行。
20	2008	3月、『縁どこまでも 一福祉と教育に生きてー（長谷川よし子十三回忌記念誌）』（発行者：長谷川良昭）が刊行される（研究所は編纂に協力）。 同月、『年報』第32号刊行（上 特集：輪島聞声・長谷川良信 両先生の教育思想と実践に関する総合研究・下 特集：感化院事業の社会史的研究(3)）。 4月、学術共同研究「東京感化院の総合研究」を開始（3カ年）。 同月、学術共同研究「共生型ネットワーク社会の持続と変容」を開始（3カ年）。 この年、年報別冊『東京感化院関係史料集』（5）(6)（7）(8)を刊行。
21	2009	3月、『年報』第33号刊行（特集：東京感化院の総合研究(1)）。 この年、年報別冊『東京感化院関係史料集』（9）(10)（11）(12)を刊行。
22	2010	3月、『年報』第34号刊行（特集：東京感化院の総合研究(2)）。 4月、淑徳大学は淑徳大学アーカイブズを設立。 10月、長谷川仏教文化研究所は、淑徳大学附置に組織変更され、千葉キャンパス内・淑水記念館4階に移転。「Not for him, But together with him 一宗教・社会福祉・教育の三位一体による人間開発・社会開発ー」（学祖・長谷川良信先生・生誕120年記念展）を同所にて開催（研究所は、展示と図録作成に関わる。常設展示）。 この年、年報別冊『東京感化院関係史料集』（13）(14)（15）を刊行。

23	2011	<p>1月, 年報別冊『東京感化院関係史料集』(16)を刊行。</p> <p>3月, 『年報』第35号刊行(特集1: 共生型ネットワーク社会の持続と変容, 特集2: 東京感化院の総合研究(3))。</p> <p>4月, 学術共同研究「現代社会における仏教福祉の現状と展望に関する研究」を開始(4カ年)。</p> <p>同月, 学術共同研究「高瀬真卿関係資料の研究 ―社会福祉分野を中心に―」を開始(3カ年)。</p> <p>10月, 「近代日本における感化教育の黎明期 ―東京感化院と千葉感化院―」展を淑水記念館3階にて開催(研究所は, 展示と図録作成に関わる)。</p> <p>同月, 長沼友兄著『近代日本の感化事業のさきがけ ―高瀬真卿と東京感化院―』(淑徳選書1)を刊行。</p>
24	2012	<p>3月, 『年報』第36号刊行(特集: 感化教育史研究の現在)。</p> <p>この年の3月より『高瀬真卿日記』(淑徳大学アーカイブズ叢書)の出版が始まる(研究所の長沼友兄氏が編集を行なう。2017年3月の第6巻で完結)。</p> <p>4月, ベトナム国家大学ハノイ校との学術共同研究「ソーシャルワークにおける仏教の役割 ―日本・ベトナム比較研究―」を開始(3カ年)。</p> <p>11月, 米村美奈著『長谷川よし子の生涯 ―マハヤナ学園と共に―』(淑徳選書2)を刊行。</p>
25	2013	<p>3月, 『年報』第37号刊行。長谷川匡俊(70歳), 淑徳大学学長を退任。</p>
26	2014	<p>3月, 『年報』第38号刊行。</p> <p>同月, 藤森雄介著『仏教福祉実践の軌 ―近・現代, そして未来への諸相―』(淑徳選書3)を刊行。</p> <p>4月, 研究所内に, アジア仏教社会福祉学術交流センターを設置(センターは, 2016年4月にアジア国際社会福祉研究所の傘下に組織変更)。</p>
27	2015	<p>2月, 『(淑徳の時間)おかげの糸』(第3版)刊行。</p> <p>3月, 『年報』第39号刊行。</p> <p>5月, 米村美奈著『淑徳人の証言 ―学祖・長谷川良信に続くもの―』を刊行。</p> <p>10月8日, ワークショップ「アジアにおける仏教“ソーシャルワーク”の現状」(5カ国共同調査)を三井ガーデンホテル千葉において開催。</p> <p>同月9日, 淑徳大学創立50周年記念・国際学術フォーラム「仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩―」を淑徳大学千葉キャンパスにおいて開催。</p> <p>同月10~11日, 日本仏教社会福祉学会第50回大会を同所にて開催。</p> <p>同月11~12日, 海外からのシンポジストと共に東日本大震災被災地現地視察を実施(岩手県陸前高田市)。</p>
28	2016	<p>3月, 『年報』第40号刊行。</p> <p>同月, 長谷川匡俊著『淑徳人へのことば ―共生と実学の気風―』(淑徳選書4)を刊行。</p> <p>11月, シンポジウム「吉田久一の歴史研究を問う ―社会福祉史と近代仏教史の立場から―」を淑徳大学千葉キャンパスにおいて開催(研究所は開催に協力)。</p>
29	2017	<p>2月, 『(淑徳の時間)おかげの糸』(第4版)刊行。</p> <p>3月, 『年報』第41号刊行。</p> <p>12月, 結城康博著『正義と福祉 ―競争と自由の限界―』(淑徳選書5)を刊行。</p>

長谷川仏教文化研究所関連事項年表

30	2018	<p>3月、『年報』第42号刊行。 4月、学術共同研究「日本仏教における戒律の福祉思想とその実践に関する基礎研究」を開始（3カ年）。 11月、シンポジウム「吉田久一史学の継承と展開」を淑徳大学千葉キャンパスにおいて開催（研究所は開催に協力）。 12月、長谷川匡俊編『現代日本における仏教社会福祉事業の歩み（2001～2010年）』刊行。</p>
31 /令和元	2019	<p>3月、前理事長・長谷川良昭、遷化（行年80歳）。 同月、『年報』第43号刊行。 同月、米村美奈著『輪島聞声の生涯—日本女子教育の先駆者—』（淑徳選書6）を刊行。 10月、『社会福祉法人マハヤナ学園100年史』がマハヤナ学園より刊行される（研究所は、淑徳大学アーカイブズと共に執筆・編集に協力）。</p>
2	2020	<p>2月、長谷川匡俊著『長谷川良信の生涯—トウギャザー・ウィズ・ヒム—』（淑徳選書7）を刊行。 3月、『年報』第44号（研究所設立50周年記念号）刊行。</p>

（作成：古宇田亮修）